

科 目 名

建築計画Ⅳ
Architectural Planning Ⅳ

(昼間) 2年 後期 2単位 選択
(夜間) 2年 後期 2単位 選択

横 堀 肇

概 要

現在、建築の種類は多岐にわたり、また、それらが複合化される傾向にあり、その計画・設計手法は、既成のビルディングタイプを安易に当てはめることはできず、ある部分では特殊化、専門化、あるいは、複雑化している。しかし、基本的には使用する人々の要求を、潜在的なものを含めて把握した上で計画することに変わりはなく、これまで以上に人間の行動や自然、社会との関わりを踏まえた計画が要求される。この建築計画Ⅳでは、ビルディングタイプがこうした基本的な計画手法に従って成立した型であることから、それらが成立した背景を再考することにより、その手法の現代的意義と問題点について概説する。対象とする建築は、商業施設、教育施設の異なる分野から、それぞれオフィスと小学校をとりあげる。

学習目標

事務所建築と学校建築をとりあげる。形態は異なるが、どちらも業務上または教育上の機能として、均一性や転用性を要求される点で共通する。これらの形態における計画および設計手法を理解するとともに、その後の変容から、その問題点を考える。

授業計画

テ ー マ	内 容
① 事務所建築と学校建築	基準階、平行配置
② 事務所の計画 i	オフィス建築の歴史
③ 事務所の計画 ii	基準階の計画：コア計画
④ 事務所の計画 iii	基準階の計画：基準寸法による設計、グリッドプランニング
⑤ 事務所の計画 iv	設備計画：規模及び個数の算定方法
⑥ 事務所の計画 v	オフィスレイアウトの計画
⑦ 事務所の計画 vi	アプローチ階の計画：都市における公共空間のあり方
⑧ 事務所の計画 vii	これからの事務所建築：人間環境としての事務所空間、都市環境としての建築・形態
⑨ 小学校の計画 i	学校のビルディングタイプ：学校建築の系譜
⑩ 小学校の計画 ii	教育運営方式とプランニング
⑪ 小学校の計画 iii	教育システムの変革への対応：教育方法の多様化に対する計画手法
⑫ 小学校の計画 iv	生活の場としての計画手法
⑬ 小学校の計画 v	地域社会と学校建築
⑭ 小学校の計画 vi	これからの学校建築
⑮ 定期試験	

授業方法

上記の授業計画に関連する最近の話題や最新情報をビデオやスライドなどのビジュアルな資料やプリント資料を提供しつつ、各種建築のあり方を考えられるようにする。

評価方法

定期試験、レポートの提出によって評価する。

教科書・教材

講義プリント

参 考 書

長澤 泰 編「建築計画」市ヶ谷出版社
日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料集成」丸善

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修／選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてC1に関連する。	建築計画コースのみ必修	22.5時間